



人のとなりに

福富 則義さん(雅号 福富 河童)

※薩摩狂句とは、人を素材にし、笑いや穿ち、皮肉や人情味などを加え、鹿児島方言で詠む五七五の詩です。

教員生活37年。県内各地で出会った方言は数知れず。今回は、川内弁を愛し、今も研さんを続ける福富さんの、ふるさと薩摩川内市への思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

方言がつなぐ縁や思い入れ

福富さんは、教職時代、県内各地に転勤し、面白い方言に触れたそうです。「赴任先では、共通語で会話をするよりも、その土地の方言を使うことで人間関係がより深まったものです」「方言がほとんど使われなくなった昨今、方言が消失してしまうこ

「小学生の時は、わざと方言を使ってふざけるような悪戯坊だった」と、今の表情からは想像のつかない子ども時代を話す福富さんは故郷の方言についてまとめた「残しもんそや川内ん方言」の著者でもあります。

せんで弁の魅力と面白さ

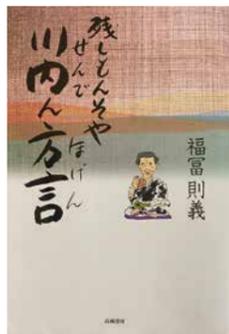
福富さんは「内密の会話の際に、わざと早口の短呼で言い合ったり、言葉の響きからなんとなく状況や心情が想像できたりと、鹿児島方言の奥深さゆえの面白さが詰まっている」と話します。

川内弁の特徴として代表的な例は、形容詞に「か」を付けること。例えば、「寒い」を鹿児島弁で表現すると「さみ」ですが、川内弁では「さんか」と言います。他にも川内弁しか使われないような「喧嘩ちよべ」「喧嘩大将」や「いっばん(ひと)つも」などはその代表的な言葉です。

とへの危機感はもちろんですが、「思い入れのある方言を後世に残したい」という思いで、著書を残しました」と話します。

我が故郷を思う

薩摩川内の魅力について尋ねると、「他の地域から『せんでガラッパ』と呼ばれ、悪いイメージ(＝人の足を引く張る)があると思いますが、それだけで言い表すことはできない」と福富さんは話します。「川内川は先祖代々、流域の人々に肥沃な土地と豊かな実りを与えてきたが、ひとたび大雨が降ると暴れ川となり、その流域に住む人々に甚大な被害を与えてきました。しかし、人々はそれにひるまず、助け合いや努力と英知で復旧に努めてきました。そのような風土は、相互扶助、不屈の魂や胆力、機知の精神を培い、これこそが『せんでガラッパ』の真髓だと考えます。また、幼い頃たびたび洪水に見舞われた当時の市街地、賑わいのある町、緑の山や澄みきった川の風景が今でも脳裏に焼き付いています。そして、薩摩国府や川内大綱引などの歴史遺産や多くの文化もしっかりと受け継がれています。そんな風土や川内人気が好きです。市街地の賑わいの復活や文芸の振興を心から願ひ、現役世代の豊かな発想や行動力に期待



残しもんそや川内ん方言

地域みんなの協力により実りました

10月19日(木)、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)で開催された第74回全国学校給食研究協議大会にて、樋脇小学校が令和5年度文部科学大臣表彰「学校給食表彰」を受賞しました。

これは、児童や保護者による給食の献立作りや地場産物生産者の方々との交流、栽培したサツマイモを食材として活用するなど、樋脇学校給食センターと連携した取り組みが高く評価されたものです。



悔しさをばねにつかみ取った日本一

10月21日(土)～25日(水)、佐賀県で、2023年度全日本社会人ホッケー選手権大会が開催されました。

本市の女子ホッケーチーム「鹿児島クラブ」が出場し、かごしま国体での敗戦の悔しさを晴らすように勝利を積み重ね、社会人日本一に輝きました。



熱い演技が繰り広げられました

10月28日(土)、S S プラザせんだいで、第14回薩摩川内はんやジュニア大会を開催しました。

市内の小学校、義務教育学校6校が「正調はんや節」や「はんやロックバージョン」に合わせて熱気の込もった素晴らしい演技を披露しました。



「まちの話題」は、市民の皆さんから情報提供いただき、身近な話題を掲載しています。ぜひ投稿ください。

星空の素晴らしさを伝えるために

10月20日(金)、黒木小学校で、出張星空観望会を開催しました。

せんだい宇宙館の先生方による天の川のお話や秋の星空と天体の講話、職員によるアンドロメダ座の神話劇などを行いました。終盤には、雨も上がり、雲の合間に土星と月を望遠鏡で見ることができ、参加者は充実した時間を過ごしました。



誰もが働きやすい環境を

10月25日(水)、本庁で、女性活躍推進企業として、(公社)川内市医師会立川内看護専門学校を認定し、認定証交付式を行いました。

産前産後休業や育児休業・介護休業の取得だけでなく、職場復帰後も時短勤務への変更など、安心して働けるよう環境を整え、男女共に働きやすい職場づくりに取り組むなど、女性活躍の推進に寄与されています。



充実したサービスを提供するために理解を深めました

11月1日(水)、本庁で、手話に対する理解を深めるため、職員向けの手話講座を開催しました。講師の福元幸一氏と手話通訳者の井手迫なみ子氏より、手話の歴史などを学び聴覚障害者に対する理解を深め、あいさつなどの簡単な手話も学びました。参加した職員からは、「手話への理解が深まり、もっと勉強したいと思った」などの感想があり、市民サービス向上に努めていきます。

